



QAスキルアセスメントとオンボーディングで乗り
越えた壁とこれから乗り越える壁

freee 本多顕成

2023/9/22 JaSST新潟

2023.08.22



free株式会社

kensei

Kensei Honda

2016/08/01 free入社

略歴

- ・2015年 システムエンジニアとしてキャリアスタート
人事労務パッケージソフト等の開発に従事
- ・2016年 free入社
3人目のQAエンジニア
- ・freeでやってきたこと
E2Eテスト基盤作成
E2Eテストシナリオ拡充
free申告
free販売

趣味

- ・お酒
特にビールとウイスキー

アジェンダ

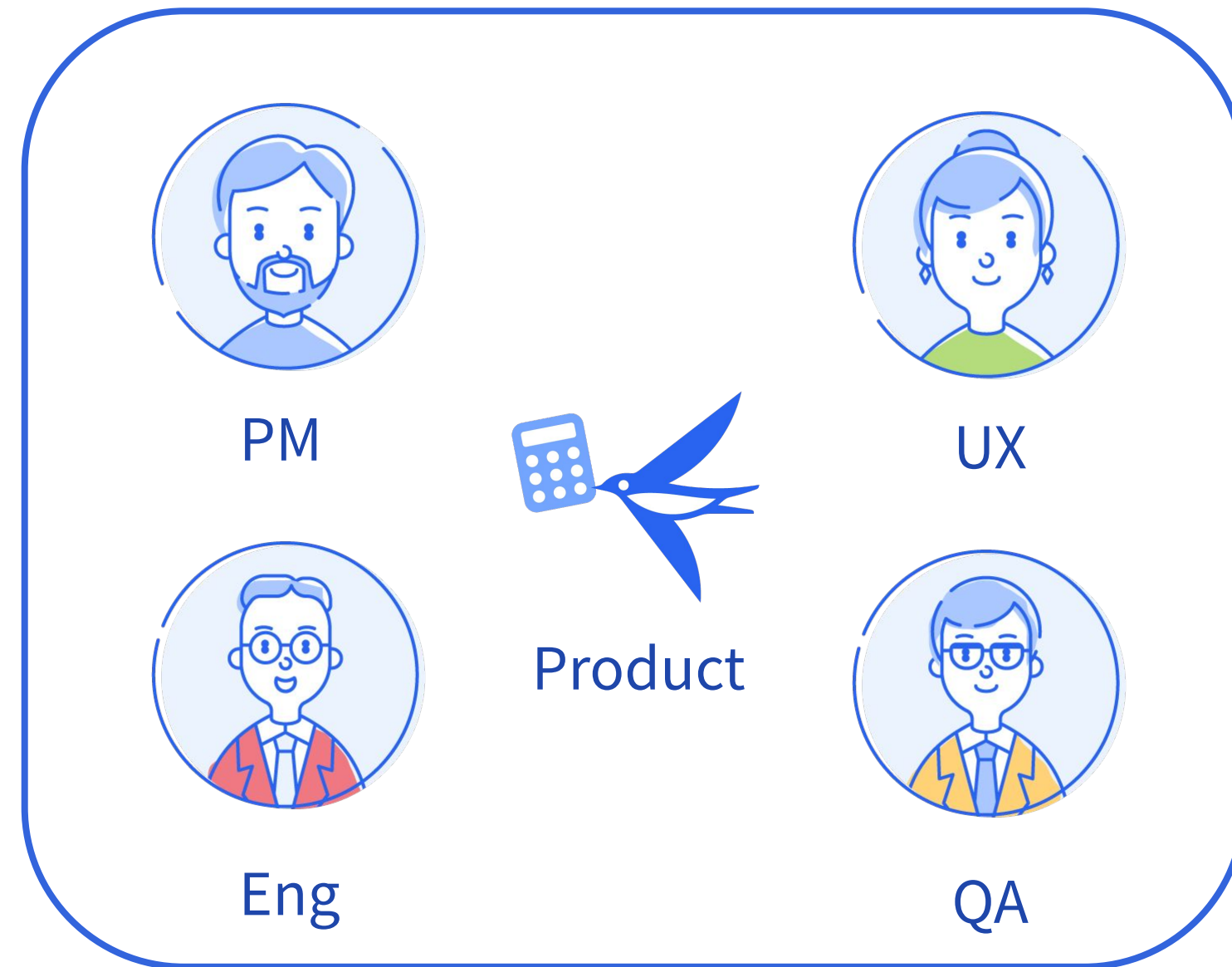
- スキルアセスメント・オンボーディング導入以前のQA組織
- オンボーディングの目的・課題
- スキルアセスメントの目的・課題

アジェンダ

- スキルアセスメント・オンボーディング導入以前のQA組織
- オンボーディングの目的・課題
- スキルアセスメントの目的・課題

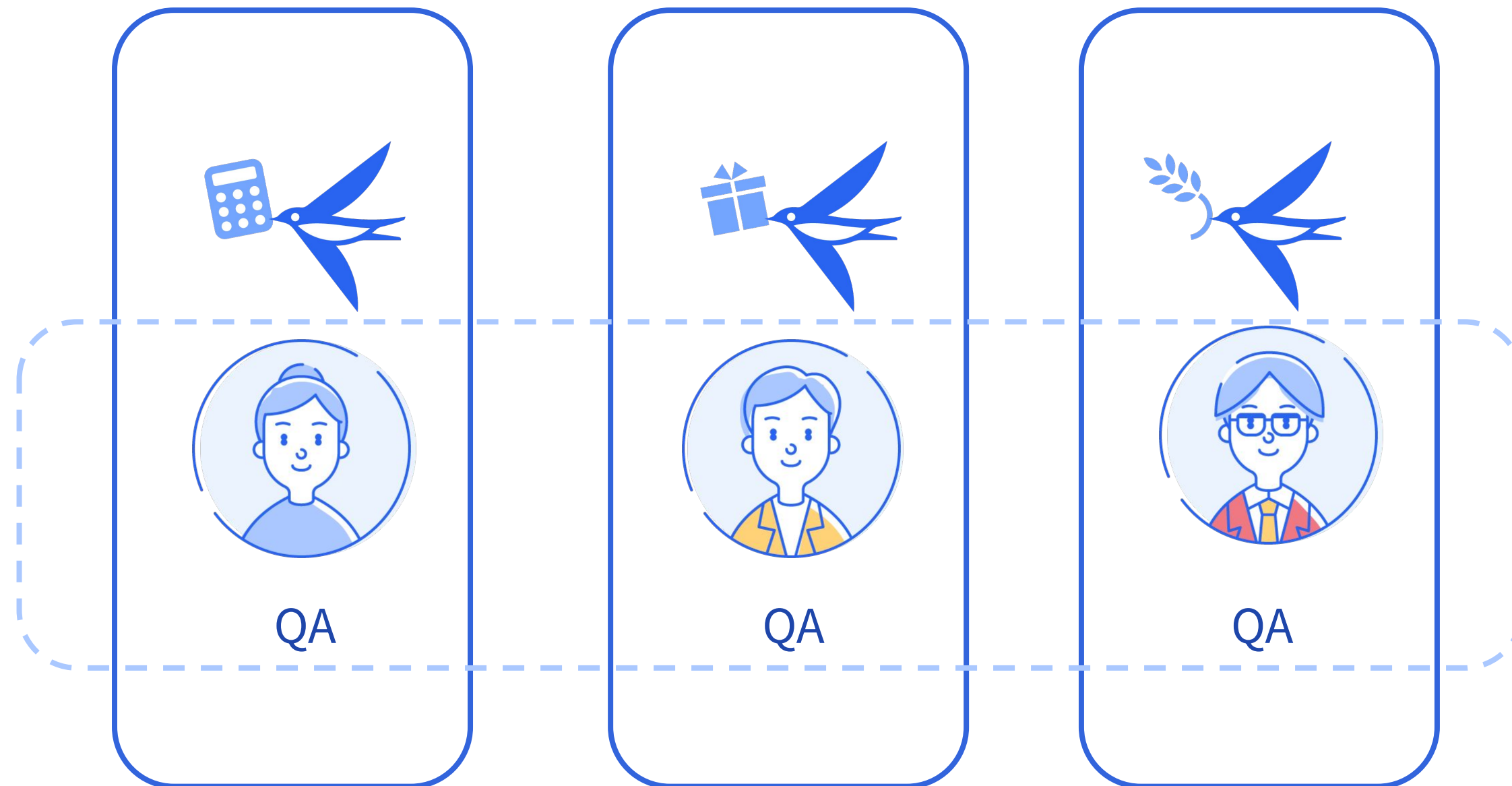
開発チームとの関係

開発チームにQAが入って密にコミュニケーションを取りながらテストできている











QA組織内での関係

各チームでテストのやり方はバラバラ



人員の増加

人は増えたがスキルやバックグラウンドはそれぞれ異なる

プリンシパル	
シニア	
ミドル	
ジュニア	 
QAテスト担当	  

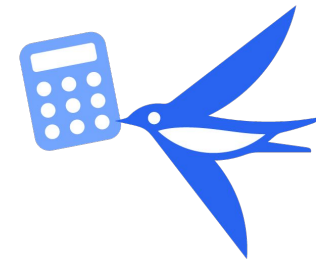
アジェンダ

- スキルアセスメント・オンボーディング導入以前のQA組織
- **オンボーディングの目的・課題**
- スキルアセスメントの目的・課題

オンボーディングの目的

freeでのテストのやり方を新メンバーにオンボーディングし、理解してもらう

ジュニアレベルまでベースを統一



QA



QA



QA

実際どうなん？

オンボーディング実施者 の課題

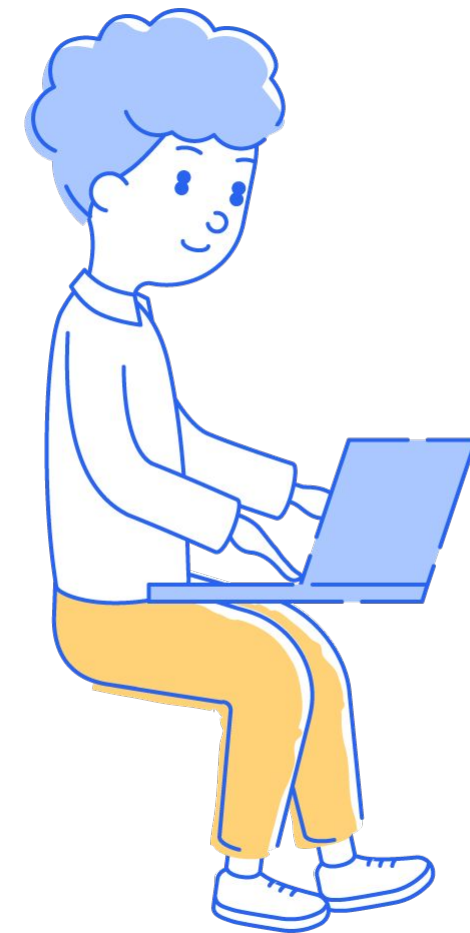


オンボーディング実施者の課題

- 実施頻度は高い、最低でも月に1回は発生。
- オンボーディング内容が最新の業務に追いついていない部分もある、メンテが必要。

通常の業務に加えて一定のコストはかかるという認識が必要

オンボーディング受講者 の課題



オンボーディング受講者の課題

- 例題で扱ったプロダクトと実務で扱うプロダクトが異なる可能性が高い。
- freeeでのテストプロセスやそれに必要な知識についての内容なので、プロダクトの特性やドメイン知識についてはここでは習得できない。
- 人によっては質問しづらい環境かもしれない。

オンボーディングを全て受けたから一人前というわけではない。

オンボーディングで学んだことを実践し、ようやくスキルとして身につく。

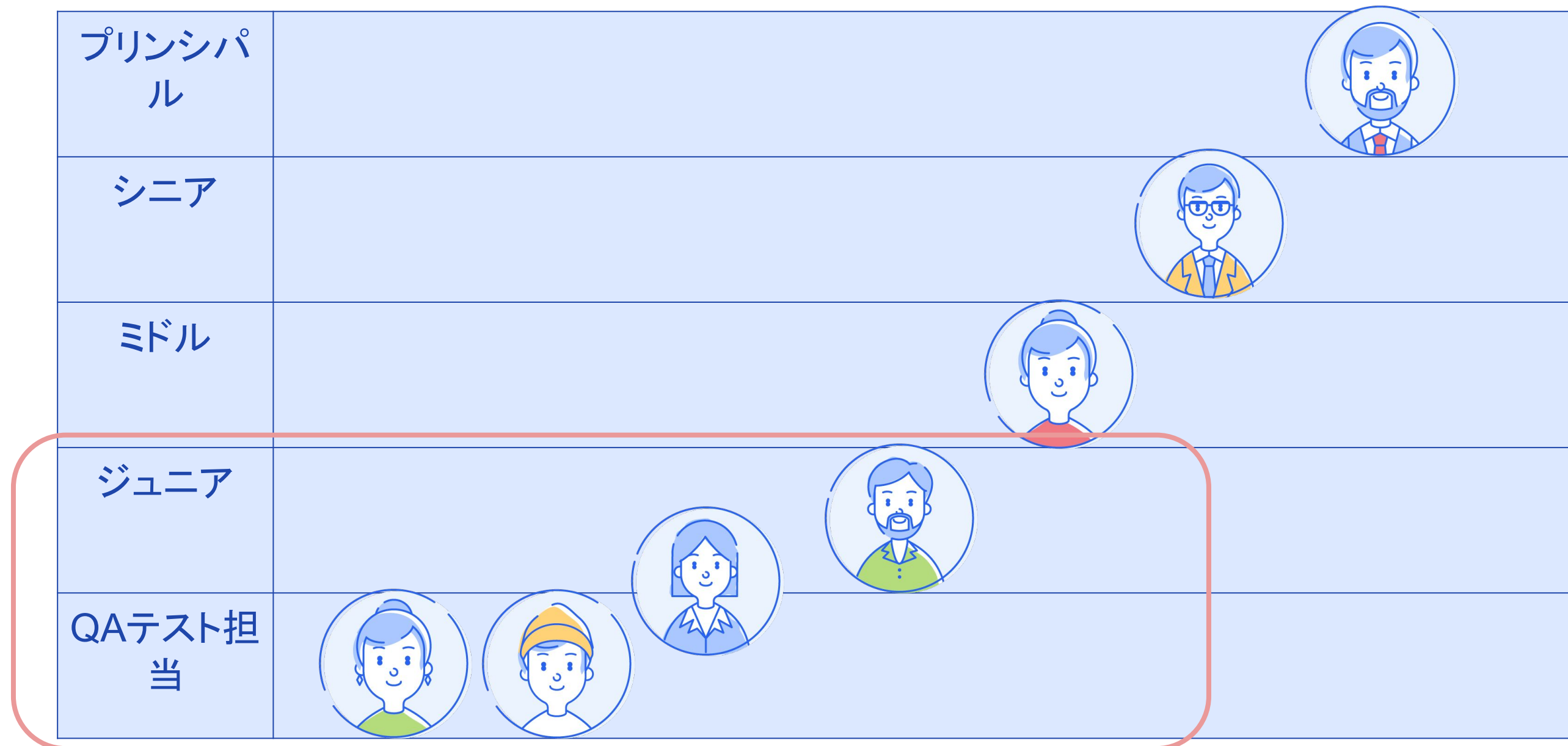
また、実際にテストする対象のプロダクトに関する知識は周囲のフォローや自身での学習が必要。

アジェンダ

- スキルアセスメント・オンボーディング導入以前のQA組織
- オンボーディングの目的・課題
- **スキルアセスメントの目的・課題**

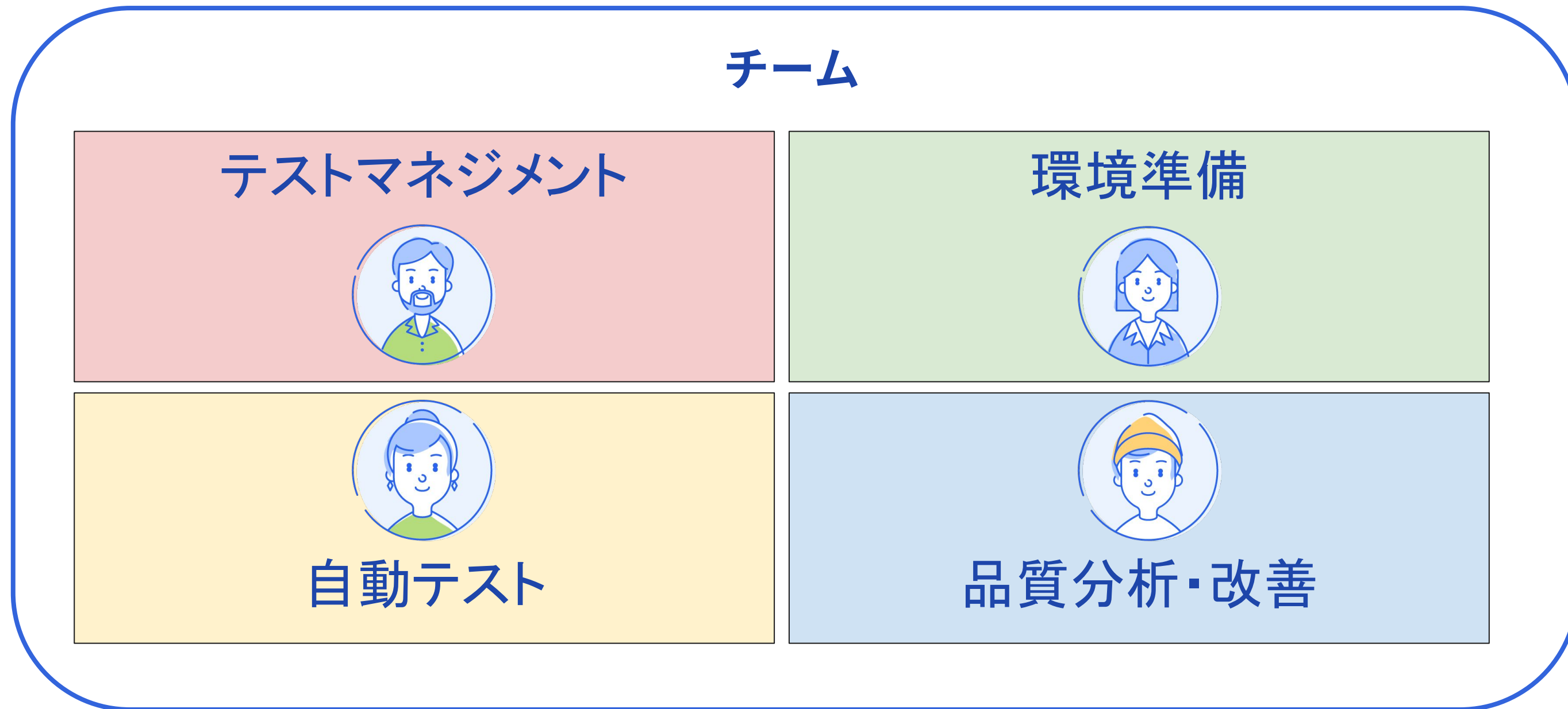
スキルアセスメントの目的

ジュニア以下メンバーの全体的なスキル底上げ



スキルアップの方針

同一チーム全員でミドルのスキルセットをカバーする



スキルアセスメントの課題

- 自己評価なのでその人の性格によりブレる。
 - マネージャーとすり合わせながら付けられると良いが、これだ！という方法は今のところない。
- チームでミドルのスキルセットを補い合おうという方針だが、1人しかQAがいないチームは全てのスキルセットを補うのは難しい。
 - 業務委託メンバは計測対象外。
- 不要になったスキルの削除などといった内容の更新が定期的に必要
 - 例: デプロイ方法の変更

これから

- オンボーディング
 - 受講者からのアンケート等を元に内容の見直し
 - プロダクト毎に必要な知識習得をどこまでフォローするか
- スキルアセスメント
 - 定期的な項目の見直し
 - 全体的に見て弱い部分への対策
 - 得意な人によるハンズオンの実施など